

インターバンクの声（2016 年 9 月 23 日）

21 日(水)、日銀の金融政策決定会合の結果が発表された後の東京市場は、一旦は金融緩和策が強化されたとして 102 円台後半までドル買いが進んだが、黒田総裁の記者会見が始まった頃からドルの売り戻しが始まった。そもそも市場も緩和策の内容が良く理解出来ないうちにドル買いになってしまったわけで、黒田総裁の発言によってはもう一段のドル買いの可能性もあったはずだが、結果はむしろ先行きの金融政策運営に不安を感じての反落だった。某シンクタンクの解説があったように、今回の緩和策の内容はまさに「非常に難解な金融政策」で、その効果のほどは不透明だ。その後の海外市場で海外勢を中心にしたドル売りがさらに進んでしまったのも仕方がない。日本時間 22 日未明 3 時に発表された米連邦公開市場委員会 (FOMC) は、予想通り現状維持となったが、12 月の利上げの可能性は残しつつも長期の金利見通しが引き下げられたことでドル円も 100 円割れ寸前まで下落した。昨日は東京市場が休場で、過去には東京勢不在の中で相場が大きく揺れ動いたことがあったためか、財務省、金融庁、日銀が幹部会合を財務省内で開いた。休日のテレビに浅川財務官が出てきたのには驚いた。投機的な動きを牽制とのことだが、それだけ市場がまだ円高に動きそうな気配が強いことを感じてのことだろう。簡単にはドル買い基調に戻りそうもない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。